

児童朝会 講話

No 7 「ぬ ①」

■令和3年7月 5日

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

今日は少し変わったテーマでお話をしようと思います。それは「ぬ」についてです。

ひらがなの「ぬ」です。

では、いまから、周りの人と、「ぬ」ではじまる言葉を10こ言い合ってみましょう。制限時間は1分です。それでは、はじめてください。よーいスタート！

どうでしょうか？

10こ言葉がでましたか？

ぬりえ、ぬいぐるみ、ぐらいはでましたか？

布、ぬかづけ、ぬるま湯、主、沼、縫う、盗む、ぬた、ぬれタオル、などもありますね。

これでしりとりで「ぬ」がきても少しあはれなれそうですね。

逆に、「ぬ」で終わる言葉ってどんなのを思いつきますか？

いぬ、エヌ、絹、死ぬ、などなど

ことわざで、

「腹が減っては戦ができぬ」というものを聞いたことはありませんか？

どんな意味でしょうか？

少し周りの人と聞き合ってみてください。

そう、おなかが減っては、勉強やお仕事などでよい働きはできないといったとえです。最後の「ぬ」

という言葉は、「できない」という意味ですね。

では、今から一曲聞いてください。

♪ (夏は来ぬ)

テレビのコマーシャルなどで使われているので、聞いたこともある人はいるとは思いますが、この歌の題名はなんでしょう？

何度もでてきた歌詞ですよ。

そう「夏は来ぬ」です。

卯の花の、匂う垣根に
時鳥、早も来鳴きて
忍音もらす、夏は来ぬ

さみだれの、そぐ山田に
早乙女が、裳裾ぬらして
玉苗植うる、夏は来ぬ

たちばな 橋 の、薰るのきばの
窓近く、螢飛びかい
おこたり諫むる、夏は来ぬ

おうち 棟 ちる、川べの宿の
かど 門遠く、水鶏声して
夕月すずしき、夏は来ぬ

さつき やみ、螢飛びかい
くいな 水鶏鳴き、卯の花咲きて
早苗植えわたす、夏は来ぬ

美しい日本語の調べで綴られたこの歌詞、今では使われなくなった、昔の言葉も多いのですが、大まかにいうと、いよいよ夏がきましたよというものです。

ところが、この歌詞、よく考えると、中身と題名が合っていないかもしないのです。

ホトトギス、たちばな、螢など夏のおとずれを知らせる鳥や花、虫などがうたわれています。が、題名の「夏は来ぬ」は、「先の腹が減っては戦ができぬ」の「ぬ」は「～できない」の意味でしたよね。それと同じ意味の「ぬ」だとしたら、「夏は来ぬ」の「ぬ」は夏が来ないとなつて、歌詞の内容と合わなくなります。どういうことでしょうか？

今日のお話はここまでです。最後まで先生の話を静かに聞いてくれて本当にありがとうございます。

「夏は来ぬ」の本当の意味がわかつた人は校長室前のボードにつぶやいてみてください。
これで校長先生の話を終わります。